

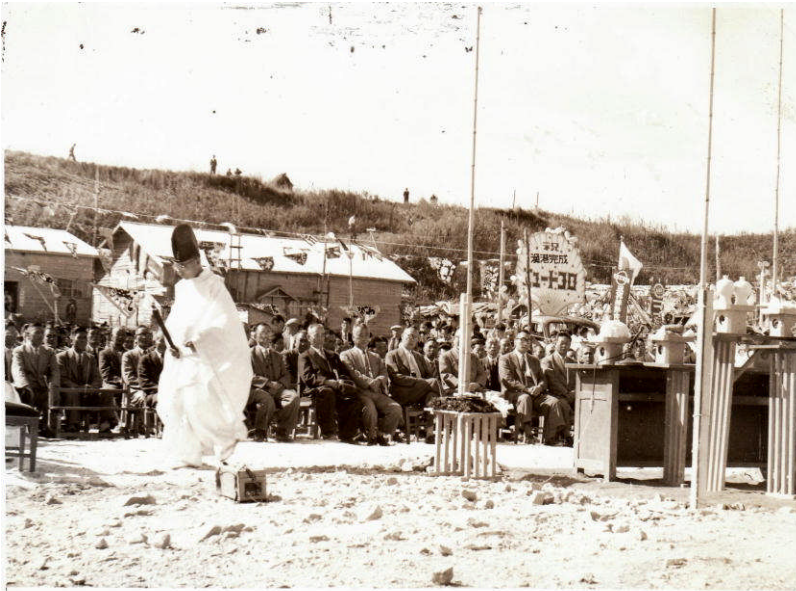
# あのとぎの常呂・写真館

VOL 45

(1958年)

## 昭和33年10月5日 常呂漁港竣工式

▶常呂漁港の竣工を、昭和33年10月号の「広報ところ」は、「浜も町も喜びに沸く、町民待望の常呂漁港完成」の見出しとともに、そのときのようすを詳しく伝えています。ここでは、抜粋して概略を紹介します。



「第1種常呂漁港の竣工式が10月5日、午前10時より新漁港埋立地（市街より1.5km）で、約350名あまりの来賓、関係者を招き、盛大に行われた。

同漁港は、オホーツク海漁業基地のホープとして昭和25年、網走土木現業所の直轄工事として着工。9年の歳月をかけて完成しました。水深3mで60トン級の中型漁船は20隻程度収容できることになり、北見沿岸では最も完備した漁港となりました。

町ではこの日、新漁港の前途を祝って数々の祝賀行事が行われました。

午前9時、花火を合図に、駅前から網走向陽高校のプラスバンドを先頭に、小中生の旗行列、絢爛の美を競う自動車の仮装パレードが漁港をめざして練り歩き、一方、漁船30余隻が満艦飾の装いを凝らして入港、式場で合流すると、広い漁港も人と





\*上：駅前集まったおおぜいの町民と  
出発直前の旗行列

\*下：漁港に設置された灯台を模した自動車の  
仮装



\*上：漁港完成の喜びがトラックの飾り  
付けに表現されています

色彩に埋まり、沿道は各町内会  
が作ったアーチ、万国旗が飾ら  
れ、浜も町も喜びに沸き返りま  
した。」

常呂漁港にはこれに並行して  
赤灯台を設置し、翌34年3月  
27日に点灯式をしています。  
▶「常呂町史」には漁港完成以  
前の状況を書いているので紹介  
します。

「本町は明治16年常呂外6ヶ  
村戸長役場が設置されて以来、  
漁村として開け、本道6大川  
の一つとされる常呂川を天然の  
漁港として利用してきたが、山  
林の伐採と開拓が年々進むにつ  
れ例年4、5月の融雪期および  
晩夏の季節に氾濫、猛威をふる  
い漁船の係留、出入りに甚だし  
く危険と困難を伴い、出漁の機  
会を逸したり、漁船の遭難が起  
こる状態だったが、この港の完  
成によって北見沿岸の良港とな  
った」



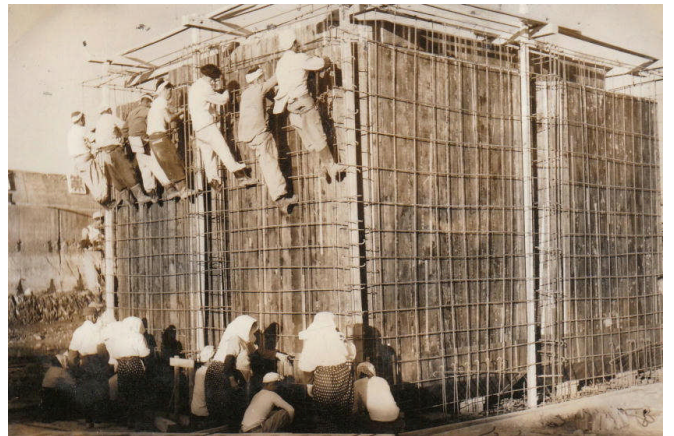
\*上：常呂漁港に到着したパレード参加者と新しい常呂漁港



\*左：大漁旗で飾りつけた漁船



\*下2枚：常呂漁港工事中の写真



\*上3枚（上2枚・右上）：常呂漁港工事中の写真  
\*左上・下：整備後の常呂漁港

